

## 【短報】東京都からのナラツブエンマムシの採集記録

ナラツブエンマムシ *Anapleus nakanei* Ôhara, 1994 は、奈良県吉野山をタイプ産地とする、エンマムシ科の微小甲虫である。日本特産種で、本州（福島県以西）、四国、九州から生息情報がある（Ôhara, 1994; 大原・山本, 2000）。

本種を含むツブエンマムシ属は、土壌中や倒木上で得られるほか、ピットフォール・トラップ、フライトインターセプション・トラップ、トラック・トラップなどでも採集されているが（大原, 1997; 今坂, 2012; 矢野・久松, 2008）, 概して確認例は少なく、これまで珍しいエンマムシと考えられてきた。

しかし、本種ナラツブエンマムシは、吉田正隆氏が考案した地中トラップ（以下、吉田式地中トラップ）で捕獲される甲虫としては代表的な種のようなのである（吉田, 2012）。徳島県各地での記録（吉田ら, 2009, 2010, 2012, 2013, 2015）は、このトラップで得られたものであり、時には多数が採集されるという（吉田氏, 私信）。

筆者は、この地中トラップ一式を吉田氏から譲り受け、奥多摩町で設置・回収を行った結果、本種が複数得られたので報告する。

6♂3♀, 東京都西多摩郡奥多摩町倉沢（標高700 m）, 27. V（設置）～5. VIII（回収）. 2015, 筆者採集, 保管。

東京都初記録。すべて沢付近のガレ場に仕掛けた吉田式地中トラップによって採集された。半径15mほどの範囲内に5個のトラップを埋設し、本種はこのうち2個のトラップで捕獲された。トラップを埋設した深さは地中30～50 cmほどで、表層の落葉落枝層より下層の、地下浅層の直上部かそれよりやや高い位置であった。トラップのまわりは大小の石をまじえた粘土質の土壌だった。誘引餌として市販のさなぎ粉を、保存液としてプロピレングリコールを使用した。なお、トラップは8月5日以降もかけ続けて12月2日にも回収を行ったが、この間に本種は捕獲されなかった。

末筆ながら、調査に協力いただき、種々ご教示をくださった徳島昆虫研究会の吉田正隆氏、走査型電子顕微鏡による観察に協力いただいた国立科

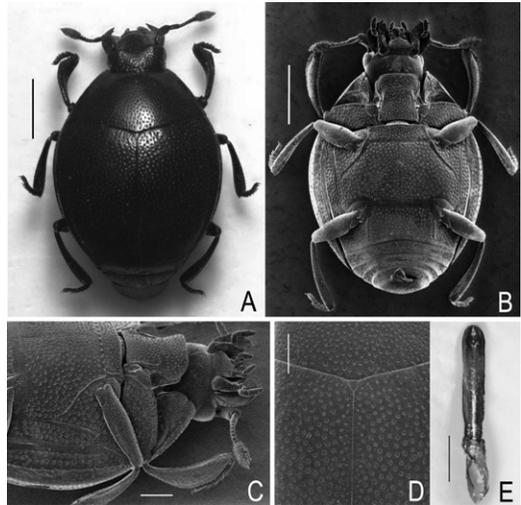


図2. 奥多摩町産ナラツブエンマムシ♂。A, 背面; B, 腹面 (A, Bのスケールは0.5 mm); C, 後胸腹板側部の点刻; D, 上翅会合部, 小楯板付近の点刻; E, 陰茎背面 (C, D, Eのスケールは0.2 mm)。B, C, Dは走査型電子顕微鏡写真。

学博物館動物研究部の野村周平博士に心よりお礼を申し上げる。

## 引用文献

- 今坂正一, 2012. 2011年に九酔溪のFITで採集した甲虫類について. 二豊のむし, (50): 53-67.
- Ôhara, M., 1994. A revision of the superfamily Histeroidea of Japan (Coleoptera). Insecta matsumurana, new series, 51: 1-283.
- 大原昌宏, 1997. 日本産エンマムシ上科概説 VI. 甲虫ニュース, (119): 1-6.
- 大原昌宏・山本栄治, 2000. 小田深山およびその周辺のエンマムシ科. 小田深山の自然, 2: 235-240.
- 吉田正隆・黒田祐次・田中光治・櫻木大介, 2009. 美馬市美馬町の甲虫. 阿波学会紀要, (55): 59-66.
- 吉田正隆・黒田祐次・田中光治・櫻木大介, 2010. 阿波市阿波町及び吉野町の甲虫. 阿波学会紀要, (56): 61-70.
- 吉田正隆, 2012. 地中トラップによる地下浅層性昆虫の採集法. 昆虫と自然, 47(5): 6-12.
- 吉田正隆・黒田祐次・田中光治・櫻木大介, 2012. 吉野川市山川町の甲虫. 阿波学会紀要, (58): 49-63.
- 吉田正隆・西川 勝・田中光治・櫻木大介, 2013. 東みよし町「日三加茂町」の甲虫. 阿波学会紀要, (59): 47-56.
- 吉田正隆・西川 勝・櫻木大介, 2015. 阿南市の甲虫. 阿波学会紀要, (60): 57-66.
- 矢野真志・久松定智, 2008. トラックトラップによって愛媛県石鎚スカイライン周辺から得られたケシキスイ科と興味深い甲虫類. 四国虫報, (41): 1-4.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)



図1. 吉田式地中トラップの設置状況。A, 周辺環境（ガレ場の法面を下から見上げる）; B, トラップの埋設。